

一度は見てみたい美しい青い鳥 ールリビタキー

スズメ目ヒタキ科、全長14cm、^{ひょうちゆう}漂鳥でほぼ全国に生息しています。亜高山帯の林で繁殖し、冬期は平地から山地の林、樹木の比較的多い公園などで観察できます。陶史の森でも、12月初旬から時々観察できるようになりました。

成鳥冬羽のオスは、額から頭部、体上面は瑠璃色（やや紫色を帯びた鮮やかな青色）で白い眉斑が入るものとそうでないものがあります。脇腹が^{とうごう}橙黄色。成鳥のメスは、頭部、体上面がオリーブ褐色で尾羽が青色。脇腹は淡い橙黄色です。

オスの羽が美しい瑠璃色になるには3年かかります。1回目の冬羽は、羽のごく一部分が、青っぽく、上面はオリーブ色で、メスと間違いやすいです。2回目ようやく頭部から上面が青くなりますが、まだ瑠璃色とはいえない淡い色をしています。3回目にしてようやく深い瑠璃色に輝く色へと変化します。長生きしたオスだけが得られる色なのです。下の写真は、上面の青みのある色や白い眉斑から2回目のオスだと思われます。

瑠璃色に輝くルリビタキはオオルリ、コルリとともに「瑠璃三鳥」に数えられます。とても美しい鳥で、見つけると嬉しくなります。今年度12月までにルリビタキとオオルリは観察できました。夏鳥と冬鳥の違いがありますので同じ時期には見られませんが、一度は見てみたい鳥たちです。



ルリビタキ（オス）



ルリビタキ（メス）

森の日記

イノシシがとまりません!!
12月16日(月)

下の写真は、左が陶史の森内の道沿いをイノシシが掘った跡です。右の写真は、せせらぎ公園内の雲五川沿いを掘った跡です。えさを探して、夜間、掘り返しています。ほぼ毎日どこかでこうした跡が見つかります。青磁、志野、桃山、天目、粉引、白磁、織部の道全てで見られます。そして、桃山緑地、ちびっ子広場でも見られます。今のところ目撃情報だけで、事故は起こっていません。しかし、事故が起これば大けがにつながる可能性があります。陶史の森に来た時は十分に気をつけてください。



教室のご案内 

- 2月**
バードウォッチング(自由参加、雨天中止)
2月23日(日・祝) 午前9時～11時30分
真冬の野鳥を観察します。
- 3月**
バードウォッチング(自由参加、雨天中止)
3月22日(日) 午前9時～11時30分
春の野鳥を観察します。

ネイチャーセンターでは、双眼鏡や野鳥図鑑を貸し出しています。気軽に声を掛けてください。

